

夢を現実に新規就農への道

執筆 新城設楽農林水産事務所農業改良普及課

氏名・産地名	松本 晃昌さん
経営類型・作目	施設野菜（夏秋トマト）
市町村	新城市



松本 晃昌さん

1. 経営・産地概要

- | | |
|----------|----------|
| (1) 経営規模 | 施設 18a |
| (2) 労働力 | 本人、パート数名 |
| (3) 販売 | 市場出荷 |

非農家出身の松本さん、一度は諦めた就農の夢をかなえ、夏秋トマト経営を始めました。悪戦苦闘しつつも努力されています。今回は、就農を考えた経緯から現在まで、その取組と状況を語ってくれましたので紹介します。

以下、松本さんが執筆しました。

2. 取組

(1) 新規就農へのいきさつ

農業に興味を持ったのは大学2年生の頃です。当時は将来について何も考えていませんでした。たまたま夕方に見ていたニュースで新規就農の特集が放送されていたのを見て興味を持ちました。最初は大学卒業後に就農を考えていましたが、サラリーマンである両親に反対にされ、諦めて一般企業へ就職しました。しかし、年々大きくなる農業への思いを断ち切ることができず改めて両親を説得して許してもらい新規就農をすることができました。



栽培施設の全景

(2) 担当者の熱い想いに惹かれた就農地

就農地は実家のある愛知県内を候補地として研修受け入れ先を探していました。その時に全国農業会議所主催の「新・農業人フェア」で「現：新城設楽地域担い手育成総合支援協議会」が出展しており、話を聞くことができました。

その時の担当の方が親身に相談に対応していただいたこと。また、懇切丁寧で熱意ある説明に心打たれました。数々の出展ブースを回り、色々な説明を聞きましたが、新城市は就農までの道筋が明確になっていました。さらに、「新・農業人フェア」の後日には現地説明会まで計画されており、参加して先輩農家のお話を聞くことができました。新城市の新規就農制度を利用して就農した新規就農者の中で経営に行き詰って離農した者がいないというお話を聞き、安心して営農できると思い新城市に就農を決めました。



施設内の栽培トマト

(3) 直近の経営

就農1年目は、栽培は順調、売上は好調であり順風満帆の船出でした。ただ、気がかりなことは施設取得に使った借入金の返済です。補助事業も活用しましたが数千万円にもおよぶ借入金です。昼間の農作業でくたくたでしたが借入金のことを考えていると夜も眠れない日々もありました。そのような中でも救いは、新規就農者向けの給付金（現：農業人材力強化総合支援事業）のお陰で生活にゆとりはありました。しかし2年目はトマト価格が暴落し3年目からは新型コロナ発生の影響で売上に陰りがみえました。そこで近くの農家や農協、普及課とも相談して経営改善を図った結果、徐々に回復していき、本年度は昨年対比130%の過去最高売上を達成することができました。



工夫した高所作業車

(4) 基本技術の励行と改善

今年、過去最高売上を達成することができました。理由を振り返ってみると「管理作業の徹底」と「作業の効率化に向けた改善」が挙げられます。

管理作業の徹底については、防除や葉面散布を徹底して行いました。例年は7日に1回のペースで防除を行っていましたが、今年度は3日に1回のペースで防除を行いました。その結果、カビの発生を抑制することができ、コナジラミの発生やそれに伴う黄化葉巻病の発生も例年より確実に防ぐことができました。作業の効率化については誘引作業に使う高所作業車や防除に使う散布機を自分が使いやすいように工夫しました。特に誘引作業はハウス1棟を終わらせるのに1時間かかるところを 30



工夫した散布機

分と半減することができました。このことにより削減できた時間は他の管理作業に回すことができ、管理作業に追われる日々からの解放ともなりました。

(5) 一番は作手地区のあたたかさに会えたこと

移住して8年経ちますが、一番良かったことは作手地区の方々のあたたかさにめぐり会えたことです。移住当初、住んでいたアパートを退去して新しい住居を探す必要がありました。そのときに所属していた消防団や地区の若い仲間に相談したところ新しい住居を見つけていただき、自分に貸してくれるようお願いしてもらいました。

また、令和5年台風2号の大雨でハウス内が灌水して被害を受けましたが、その時も夜遅くにも関わらず、投光器や懐中電灯を持って駆けつけてきてくれて復旧作業を手伝ってもらい、翌日には通常通りの仕事をすることができました。

就農1年目のとき「お互い様の精神で」ということを先輩農家から教わったこともあり、まだまだ助けられる側のことが多いですが、これからは助ける側になれるように精進していきたいです。